Weekly Report Niigata

2014～15 年度
国際ロータリー会長
ゲイリーC. K. ホァン

ロータリーに輝きを

2014～15 年度　国際ロータリーのテーマ

2014～15 年度
新潟ロータリークラブ会長
高橋　秀樹

新潟 RC　6月第　2例会（2015.6.9）№3090

(1)　ロータリーソング「四つのテスト」斉唱

(2)　高橋　秀樹会長挨拶

本日は一冊の古い書物についてお話ししようと思います。アイルランドの首都ダブリンにトリニティカレッジという大学があり、その図書館に『ケルズの書』と呼ばれる書物があります。これは 9 世紀頃制作されたもので、アイルランドの国宝になっており、欧米では「世界で最も美しい本」と呼ばれており、世界中から多くの観光客を集めています。内容はラテン語版の聖書なのですが、1頁あたりだいたい 33 ㎝×25 ㎝で、680 ページからなる大きな本です。30 ページを越える豪華な挿絵のページがあり、また、字が書かれているページでもあちこちに細かく装飾や図像が挿入されていて、当時のアイルランド美術の粋が集められた作品になっています。

私は先ほどこの本が「制作された」と述べましたが、まだ本の印刷技術がなかった中世ヨーロッパの時代には、本はすべて手で書き写して伝えられました。ですから、本は大変高価なものであり、古くは修道院で専門の職人たちが学問や各種の知識を伝えていくために制作していました。やがて、大変裕福な人々が職人たちに注文し、時間をかけて贅沢品として制作させることも増えてきて、その結果、豪華な書物のコレクションを所蔵していることが一種のステータスシンボルになっていきました。

この『ケルズの書』は、8 世紀末から 9 世紀初めころの古い時代に、修道院で制作されたものですが、これにどれほどの人手と財力が必要だったかご説明したいと思います。

字を書き記す職人については、文字の書き方の癖からして最低3人はいたようです。また豪華な挿絵のためには、おそらく3人の画家が関わっていたと見られています。

本文の文字を記すインクは鉄を原料としたものですが、色を塗るために様々な材料が使われました。陰影を帯びた深みのある青色のためにはアフガニスタン産のラピスラズリ、海老茶や紫には地中海の植物から抽出された顔料、赤のために地中海のカイガラムシの一種から抽出した顔料などが使われ、他にも遠方から取り寄せた高価な絵の具が惜しげなく使われました。さらに挿絵に立体的な効果を持たせるため、一度色を塗った上に、半透明の別な色を重ねて塗るという高等技術も用いられており、多いところでは色が三つの層になっているところもあります。

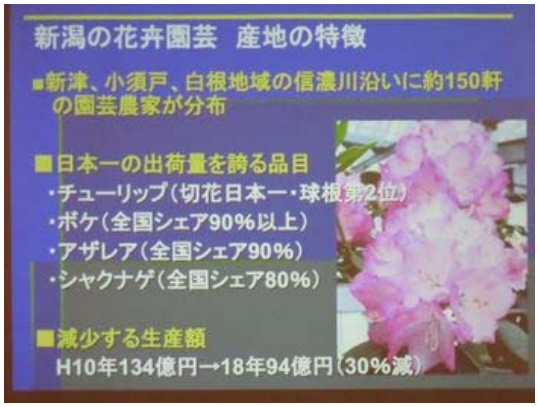
そして、そもそも紙自体が高価なものでした。当時はいわゆる羊皮紙が用いられていましたが、これは牛の皮を加工したもので、薄くてしなやかなものが上質とされ、生後間もない子牛や子宮から採られた皮が用いられました。現存する『ケルズの書』にはおよそ 185 頭分の皮が用いられていますが、当時の畜産技術を考えると、使い物にならない皮もたくさんあったはずなので、実際には 1200 頭ほどの子牛が必要だったろうと考えられています。

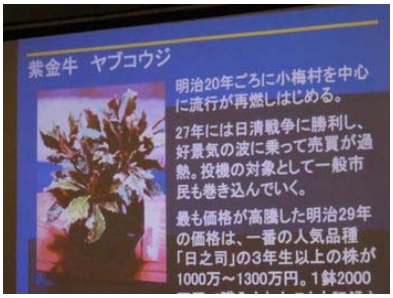
要するに、この書物の制作には莫大な財力と人手が費やされているのです。さぞかし豊かで繁栄した時代の産物だと思われるでありましょう。しかし、ここでこの書物が制作された時代のことをお話ししたいと思います。

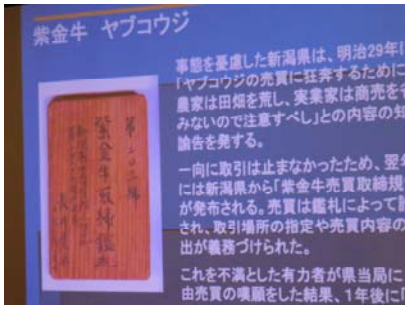
かつてヨーロッパではギリシア・ローマの古典文化が隆盛を極めた時代がありました。しかしこの繁栄の時代は、4 世紀頃に始まったいわゆる「ゲルマン民族の大移動」の頃から様変わりして、ヨーロッパの殆どの地域は戦乱と群雄割拠の状態になります。いろいろな王国が生まれては消えていきましたが、文化レベルは著しく落ち込み、国王ですら満足に読み書きができないことが少なくありませんでした。その中で唯一古典文化の高いレベルを保っていたのが、アイルランドとスコットランドでした。なぜなら、この二つの地域はあまりに寒く、しかも土地がやせていたので諸民族が征服の対象とせず、戦乱を逃れていたからです。他の地域が戦乱に明け暮れる中、アイルランドは「学者と聖人の島」と呼ばれて尊敬され、ヨーロッパの文化をリードし、アイルランドとスコットランドの修道院は戦乱のただなかにあるヨーロッパ各地に学者たちを派遣していました。貧しい土地柄ではありましたが、莫大な財産や財宝が寄付されて修道院は潤い、精力的に多くの書物を制作していました。しかし、8 世紀末になるといわゆるヴァイキングが活動し始め、状況は一変します。ヴァイキングは北欧の人々ですから、アイルランドやスコットランドの寒さなどものともせず、修道院の富と財宝を求めて盛んに襲撃し、略奪を繰り返し、土地を占領していきました。この災厄の時代に制作されたのが『ケルズの書』なのです。

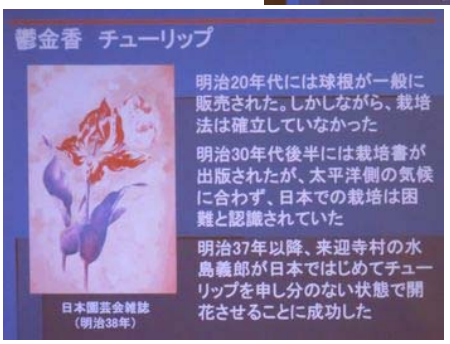
この制作にかかわった人々は、最初スコットランド西部の小さな島（アイオナ）に住まっていましたが、襲撃を受け、アイルランドのケルズに逃れてきました。彼らは、ヴァイキングの襲撃を躱し、逃げ惑いつつ、それでも莫大な資産と労力を費やして、当時のヨーロッパ最高峰の文化を維持し、それを形にして後

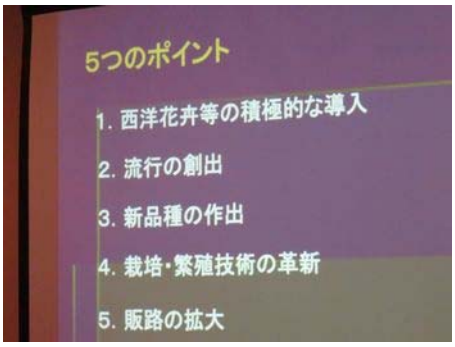
世に遺したのでした。私はキリスト教徒ではありませんし、そのために何百頭もの牛が屠殺されたことはいかがなものかとも思いますが、大変な災厄の中にもかかわらず自らの社会的使命を貫徹しようとした態度に感じるところがあります。『ケルズの書』はその後戦乱の中で盗難に遭い、失われていた時期もありましたが、奇跡的に発見され、現在アイルランドの国宝となって、一般に公開されています。
私はダブリンに滞在する時には、しばしばこの書物を観に行きますが、その度に、当時の人々が、どんなに不遇な状況にあろうとその社会的使命を貫くことをあきらめなかったということに、感動を覚えずにいられません。そしてこの書物から新たな勇気をもらって、閲覧室を後にするのが常であります。
さて、ロータリーには「職業奉仕」という言葉があります。さまざまな解釈があろうかとは思いますが、私の思うところ、自らが背負った、乃至、自らが選んだ社会的使命の貫徹ということが、「職業奉仕」という理念の根底にあるのではないかと思います。それぞれが黙々とその社会的使命を担い、それらが共鳴し合いながら、より良い社会につながっていく、というのがロータリーの理想でありましょう。私も、ささやかながら日々その使命を果たすべく勤しみたいと思っております。
本日の会長挨拶は以上です。











(3)　ビジターの紹介

・渡邊　肇君（宇都宮ＲＣ），樋口　恵一君（新発田ＲＣ）

(4)　ロータリーの友紹介（関川広報委員）

(5)　東北電力（株）新潟支店長　坂本光弘君退会挨拶

(6)　新潟市内ＲＣゴルフ大会報告（桑原　隆君）

(7)　ニコニコボックス紹介（小林　悟ＳＡＡ）

・桑原　隆君　今年、20年不利にゴルフを再開し7クラブ対抗大会に参加しました。結果は断トツのBM賞でしたが、柴田先生、玉さん、松本さんのラウンドレッスンに心から感謝します。もう一つ、県展写真の部に3年振りに入選し、ニコニコです。

・坂本　光弘君　2年間、大変お世話になりました。新潟RCの益々のご発展と皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

(8)　卓話「新潟花の園芸史」

新潟県立植物園副園長　　倉重　祐二　氏

(9)　本日の出席率　６０．６４％
会員数９７名（出席免除会員　７名）
出席者５７　名（出席免除会員４名を含む）
（2 週間前メーク後　９０．６３　　%）

６月１６日の例会予定

卓話「荒ぶる自然とのつきあい方ー
日本人の伝統的自然観ー」

新潟大学名誉教授（ビュー福島潟名誉館長）

大熊　孝氏

青少年奉仕の夕べ

青少年奉仕委員長　本間　　彊

去る 5 月 27 日(水)、午後 7 時よりホテルイタリア軒サンマルコにて「青少年奉仕の夕べ」が開催されました。この催しは新潟 RC 青少年奉仕委員会の主催による初めての試みでした。

新潟 RC は新潟ローターアクトクラブ、同インターアクトクラブ、ロータリー財団、米山奨学生など社会や学校で多岐に亘って活動する若者たちを支援しております。この日はローターアクトメンバー(新潟青陵大学学生も参加)が 13 名と多数が出席し、またインターアクトを代表して新潟明訓高校大滝学校長先生、顧問教師の齋藤先生、RC 財団奨学生 OB の八木さんなど若者とロータリアン総勢 43 名がそれぞれ席も隣り合わせになり会話も楽しく弾みました。自己紹介の後、シャンパンで乾杯。フランス料理とワインなどイタリア軒心づくしのディナーを堪能しました。この日のゲストは例会でお馴染みの濱田道子さんをお招きし、ピアノの演奏をじっくり聞かせて頂き、心に響く素晴らしい演奏に酔いしれました。濱田さんの歌やジャズの演奏とトークも実に楽しく、例会時とはまた違った印象で、興味深く感じました。最後に全員で「ふるさと」を合唱し閉会。ロータリアンと若者たちの距離が少し縮まったようにも思いました。ご出席頂いた新潟 RC 会員の皆様のご協力に心より感謝致します。

ローターアクター自己紹介

濱田道子さんと柴田史郎さん連弾
アメージンググレース

濱田道子さんによるピアノ演奏と歌